

# 受胎率向上対策 ～分娩間隔の短縮への努力～

## 2011.5.11-13 市場研修会 おおいた肉用牛振興協議会

### 1. 出産後の発情回帰

- ・平均48日(20～70日)
- ・子宮が収縮し、すっかり回復するのは、50～60日経る

**!** ※出産後すぐに子牛を離乳すると発情は早く戻るが子宮の回復は遅れる。

(吸引刺激のなくなるため)

### 2. 繁殖管理記録

- ・方法は、手帳・ノート・黒板・台帳・繁殖カレンダー・繁殖管理板・パソコン等

・個体情報を把握することが重要

**!** ※繁殖管理記録の内容について、生年月日・分娩年月日・発情発見月日・授精月日・妊否・流早死産月日・繁殖障害初診月日・治療内容  
※繁殖カレンダーを持参していただきますのでお声をかけて下さい

### 3. 授精後の繁殖管理

- ・次回発情予定日前後の発情観察が重要

**!** ※発情周期は21日

### 4. 繁殖障害の早期発見

- ・経営内で繁殖障害とする個体の中に、発情の見逃しによる場合がかなりある
- ・繁殖障害は飼養管理の結果である
- ・早期妊娠診断と共に繁殖障害による無発情牛の確認を日常管理の中で行うことが重要

#### ●発見指標

#### ①未経産牛の場合

- ・生後14ヶ月齢を経過しても発情が発現しないか発情微弱

#### ②経産牛の場合

- ・分娩後30日を経過しても悪露又は汚れた粘液を排出する

#### ③共通

- ・3回以上人工授精しても受胎しない

・授精5日以上経過して、なお外陰部が弛緩(シム)していたり、粘液を排出する

- ・授精後16日未満又は、26日以上の経過日数で発情が回帰する

獣医師等に連絡し治療を願う

## 5. 発情観察のポイント・発情進行に伴う行動パターンは他の牛に接近、接触する行動が増し、並列する行動、後を追う形の行動、乗駕(乗る)、被乗駕(乗られる)、乗駕忌避(にげる)、乗駕許容(スタンディング発情; 発情牛が他の牛に乗駕されても動かない)行動が見られる。発情最盛期を過ぎると他の牛の乗駕を忌避する行動が多い



写真2 雄子牛が発情牛を嗅ぎ分ける  
(この行動は発情発見の補助になる)

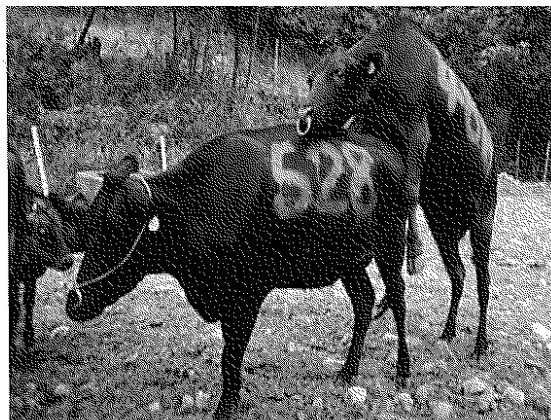


写真3 発情牛に乗駕されたが逃げぎみ  
(発情終了が近い)

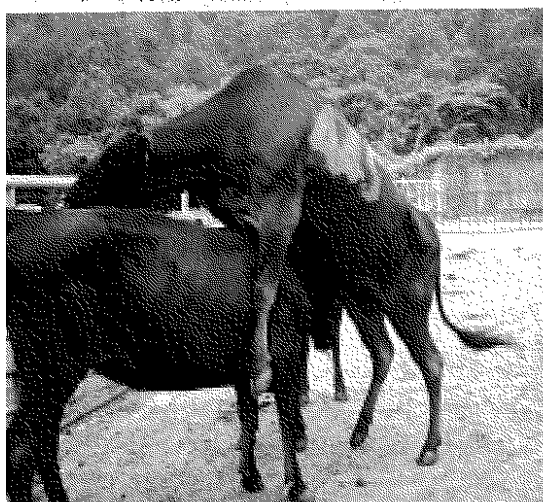


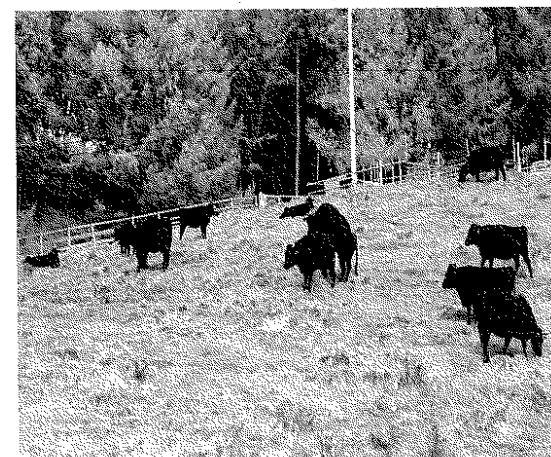
写真4 変な乗駕姿勢であるが2頭とも発情牛



写真5 乗駕許容状態  
(スタンディング発情: ハドッパ)



写真6 乗駕許容状態  
(スタンディング発情: 放牧地)



9 - 写真7 乗駕許容状態に感心を示す後方の2頭  
数時間後に発情行動を開始